

3) 排水沈殿池での放流による中間育成試験

材料と方法

場内の排水沈殿池に殻高の異なるヤコウガイ稚貝を放流し、約4ヶ月後夜間のスキューバ潜水で回収した(表4)。

結果と考察

排水沈殿池に放流した稚貝の成長は水槽飼育個体とほぼ変わらないかやや上回った(図3)。回収率は大型貝で68.5%、小型貝では24.0%であった。

また排水沈殿池で成長したヤコウガイ殻の重量は水槽飼育個体のものよりやや重かった(図4)。殻の厚みが水槽飼育個体より増しているものと考えられる。

放流試験期間中の水槽飼育貝の生存率は75.1%であった。餌料である海藻の採集や水槽の掃除にかかる労力、また、注水停止等の事故による大量斃死の可能性を考えると、沈殿池での中間育成は十分実用化に値すると思われる。

また、10月以降の観察で排水沈殿池内で大型貝、小型貝とも数百個体が生存していることが確認された。

稚貝をより長期間排水沈殿池で中間育成することにより、放流後の高生存率が期待できる超大型種苗(殻高70~80mm)の生産や、排水沈殿池と同様な石積みの構造のある漁港内での中間育成の可能性も検討したい。

残された問題点

小型稚貝の回収率が24.0%と悪かったことについてその原因及び適当な放流サイズの検討が必要である。

また、沈殿池内にレイシガイダマシモドキが多数生息しており、水槽試験で不活発にはあるが、ヤコウガイ稚貝に穿孔して捕食することが確認されたため、駆除等の対策も検討する。

表4. 排水沈殿池での中間育成結果

試験期間：4月20日~8月11日
回収に要した時間：10時間/人

	大型区	小型区
放流時の平均殻高(mm)	12.5	7.5
放流個体数	3500	2100
回収個体数	2410	504
回収時の平均殻高(mm)	27.6	18.5
回収率	68.5%	24.0%

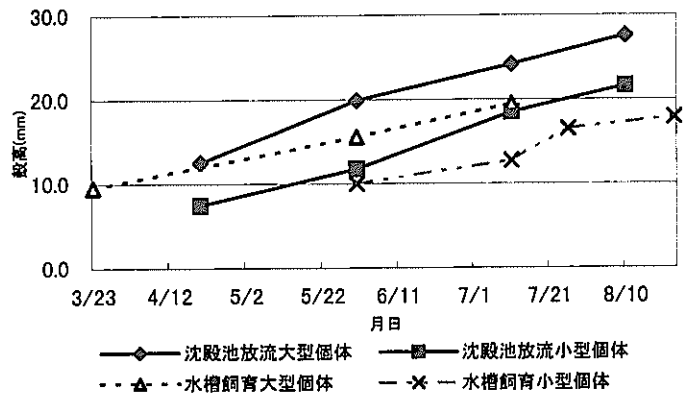


図3. 沈殿池放流貝と水槽飼育貝の成長の比較

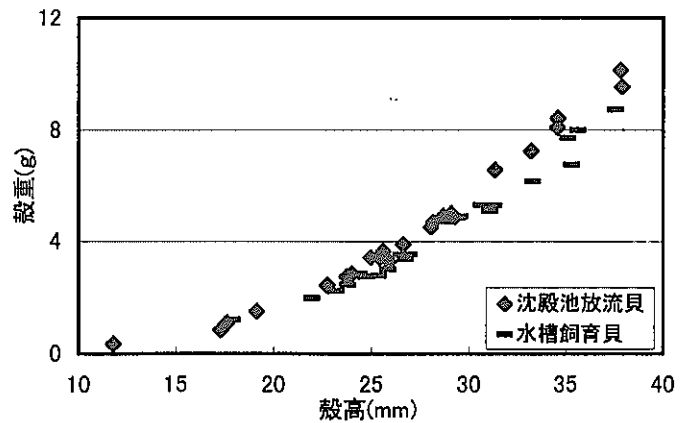


図4. 沈殿池放流貝と水槽飼育貝の殻重量の比較